

丸山眞男文庫の整理・公開――二〇〇九年四月以降の進展と展望

松沢 弘陽・山辺 春彦

丸山眞男文庫資料の整理・公開については、二〇〇九年三月までの作業の概要を、『東京女子大学比較文化研究所附置丸山眞男記念比較思想研究センター報告』創刊号から第四号・第五号合併号までの各号に掲載しました。今号では、その後をうけて、二〇一〇年三月までに行われた作業の要点と展望を記します。

I 閉架資料の部分公開開始

丸山文庫は、二〇〇九年七月に、所蔵閉架資料の部分公開を開始しました。公開したのは、ノート・草稿類の一部（分類大項目第1部から第7部まで）と、閉架図書二〇冊の複製本で、総数は約三千点です。ノート・草稿類のうち、破損の恐れがある資料については、閲覧用のPDFファイルを作成しました。公開にあたって、丸山文庫のホームページ（<http://office.twcu.ac.jp/facilities/maruyama/bunko/index.html>）を開設し、ノート・草稿類用OPAC（丸山眞男文庫所蔵草稿検索）の運用を開始しました。公開資料と閲覧方法について、詳しくはこのホームページをご覧ください。

II 部分公開についての取材と記事掲載

閉架資料の部分公開に際して、東京女子大学は、報道各社に対してプレスリリースを行いました。それを受けて、読売新聞、共同通信、週刊読書人の記者が取材に訪れ、どの記者も、未発表の草稿や図書への書き込みなどについて、熱心に調査されました。読売新聞は、二〇〇九年七月一日朝刊に紹介記事を掲載、共同通信は二回にわたって記事を配信し、一回目は七月一日、二回目は終戦と丸山眞男の永眠にあわせて八月一日から一九日にかけて、全国の地方紙に掲載され、週刊読書人は、八月二八日に記事を掲載しました。

III ノート・草稿類の整理

前号で説明したOPAC用データの整備作業は、ほぼ完了しました。また、公開のための作業として、資料ひとつひとつについて、袋詰めと公開の可否・公開方法の検討を引きつづき行いました。今年度は新たに、岩波書店の故吉野源三郎氏が整理・保存されていた平和問題談話会関係の一次資料を再整理し、登録しました。

これまでOPAC用データに登録されていなかった資料として、丸

山のもとに送られてきた二千点以上の抜刷があります。これについては、一覧リストを公開することとし、作成にとりかかっています。丸山による書き込みや折り込みなどがある抜刷は、図書の場合と同じく、PDFファイルで公開します。書き込み類がない抜刷は、保存するか否かも含めて、扱いを検討しています。

IV 図書の整理

以前より、書き込み類があるページをスキャンして作成した閲覧用PDFファイルの点検にかなりの時間をかけて取り組んできましたが、今年度によりやくこの作業を終えることができました。そして、追加のスキャンを、このPDFファイルの作成者である富士ゼロックスシステムサービス株式会社に発注しました。ノート・草稿類より新たに発見された手沢本のスキャンも、あわせて発注しました。

この他に、丸山によるおびただしい書き込みが残っている『文明論之概略』（岩波文庫）の保存方法を検討しました。この本は、酸化による劣化が激しいため、脱酸化処理を検討しましたが、インクが消えてしまうおそれがあるため、この方法は断念しました。結局、セロファントープの剝離と補修、アーカイバル容器への封入を有限会社資料保存器材に依頼しました。

V 雑誌の整理

丸山が所蔵していた一万八千冊以上の雑誌の整理は、これまで、『丸

山文庫寄贈図書資料目録』（冊子体）にタイトルと巻号を登録し、その順番にしたがって閉架書庫に配架するところで終わっていました。この目録では別扱いされていませんが、丸山の執筆した文章が掲載されている雑誌と、丸山にふれた文章が掲載されている雑誌は、それぞれ刊行年順に別置されています。今年度は、この二種類の丸山関係雑誌の整理を行いました。まず、雑誌のリストを作成し、書き込みなどの状況を調査しました。次に、重複や抜刷扱いするものを取り除き、東京女子大学図書館スタッフに雑誌用IDのラベルを貼付していただきました。そして、図書と同じく、書き込み類のあるページのスキャンを富士ゼロックスシステムサービス株式会社に発注し、閲覧用のPDFファイルを作成しました。

VI 今後の展望

丸山文庫は、二〇一〇年度中に、書簡と楽譜を除くすべての所蔵資料の公開準備を終える予定です。ノート・草稿類の中で未公開の部分は、資料を一点ずつ袋詰めし、公開の可否と公開方法を決定します。ノート・草稿類に含まれていた図書・雑誌類は、当初、東京女子大学図書館OPACに登録する予定でしたが、このOPACになじまない雑多なものもあるため、これらはノート・草稿類として登録します。抜刷は、リストを完成させた上で、書き込みなどがあるものは閲覧用PDFファイルを作成し、ノート・草稿類用OPACに登録します。その他に、原物の保護と利用者の便宜をはかるため、順次PDF化する

るノート・草稿類を増やすことを予定しています。

閉架図書に関しては、追加スキャンされたPDFファイルの点検中に、また欠漏が多数発見されたので、再度追加スキャンを依頼する必要があります。その後、書き込み類の重要度の判定と、東京女子大学図書館OPACへの登録を行います。

雑誌についても、閉架図書と同様に、書き込み類のあるページの閲覧PDFファイルを作成し、東京女子大学図書館OPACへ登録する必要があります。そのために、まず、全雑誌の全ページに目を通し、書き込み類のあるページを特定する作業を行います。